



平成30年度
執行方針と予算

第1回町議会定例会で
宮坂町長は平成30年度の
施政方針、遠藤教育長は
教育行政執行方針を訴え
ました。

今年度新たにスタート
する事業や重点的に行っ
ていく事業を予算ととも
に紹介します。

広報あつま

2018年 4月号
平成30年

もくじ
CONTENTS

- 2 ひとのうごき
- 3-4 町長施政方針
- 5 教育長教育行政方針
- 6-7 平成30年度予算の概要
- 8-9 平成30年度主な事業と予算
- 10 平成30年第1回町議会定例会
- 11 町職員の人事異動
- 12-13 いけませ夏フェス
- 14 介護保険料
- 15 #ATSUMA LOVER／乗って守ろう路線バス
- 16-21 お知らせ
- 22-23 3月のあつま
- 24 防災のページ
- 25 シャペーる通信
- 26 保健の掲示板
- 27 子育て支援センター／まちのアイドル
- 28 健康情報
- 29 厚高インフォメーション
こぶしの湯あつま
- 30-31 情報ひろば

ひとのうごき

平成30年3月31日現在 ()内は前月比

人口 4,652人 (-10)
男 2,301人 女 2,351人

世帯数 2,158世帯 (+4)

3月1日～3月31日届出分

※窓口などで、広報紙への掲載についての確認ができた方を掲載しています

みなさんの声をお聞かせください

「こんな記事を読んでこう思った」「こんな疑問をもっている」など、どんなことでも結構です。

※紙面は無記名ですが、住所や氏名、年齢は伺います。

まちづくり推進課企画調整グループ
☎ 27-3179 FAX 27-2328

「広報あつま」はホームページでもご覧いただけます

<http://www.town.atsuma.lg.jp/office/>

広報あつまの電子書籍はこちらから。
www.hokkaido-ebooks.jp



※折り込みチラシを削減しています。

今月の表紙 COVER

3月20日厚真中央小学校の卒業証書授与式が行われました。今年は、町内の小学生42人、中学生42人、高校生37人の卒業生がそれぞれの思いを胸に新たな一歩を踏み出しました。



平成30年度施政方針 挑戦者の気概をもった まちづくり



厚真町長
みやさか しょういちろう
宮坂 尚市朗

子ども・子育て支援の充実

妊娠出産から就学まで切れ目のない総合的な子育て支援を実現するため、子育てに関するワンストップ窓口となる「子育て世代包括支援センター」を開設し、子育て世帯に寄り添った支援を行ってまいります。

子育て世帯の経済的負担の軽減については、新たに一定の所得制限と家賃制限のもとではありますが、民間賃貸住宅に入居している子育て世帯に対する支援を行ってまいります。

子どもを地域で安心して生み育てることができる環境づくりのため、新たに、悩みを抱える妊産婦に対して助産師などの専門職が相談支援を行う産前産後サポート事業を実施し、妊産婦などの経済的、精神的負担を軽減してまいります。

生涯学習の充実

本年度から3年間、中学2年生と3年生を対象として英語圏に派遣し、グローバル社会に生きる生徒の育成方法と英語教育の検証につなげてまいります。

社会教育では、厚真放課後児童クラブの運営拠点である厚真地区児童会館は、老朽化が進み狭あいでもあることから、本年度、厚真中央小学校隣接地への建設に向け、現在、実施設計を進めているところであり、平成31年度の供用開始をめざしてまいります。また、周辺の自然環境を児童の放課後活動に最大限生かすため、保護者をはじめ住民の手による「冒険の杜」づくりを計画してまいります。

また、本年は北海道命名150年の節目の年であり、本町では、北海道(北加伊道)の名付け親で、本町にも足跡を残した幕末の探検

まちづくり人材の育成

田園回帰志向の貴重な人材の「ローカルに生きソーシャルに働くライフスタイル」をまちづくりに取り込み、都会で学ぶ大学生などが地方に関心を持ち、地方で活躍できる環境づくりを進めるため、引き続き、インターンシップや本町の地域資源を活用したフィールドワークを受け入れてまいります。意欲的な人材を育成・支援し、農業・農村の付加価値の向上と地域課題の解決に取り組んでまいります。

高齢者福祉・介護の充実

ボランティアの育成継続とボランティアポイント制度の本格運用を図り、住民参加型の生活支援体制の構築をめざしてまいります。在宅医療・介護連携については、本年度から東胆振定住自立圏において苫小牧市医療介護連携センターを中心とした広域連携に取り組んでまいります。

障がい者福祉の充実

本年8月、全道各地の障がいのある児童やその家族が一堂に会し、多彩に交流するイベント「いけませ夏フェス2018」が本

町で開催されます。スタッフやボランティアなどを含め総勢1,200人を超える想定です。実行委員会などの関係機関と連携を密にして、全面協力してまいります。

農業の振興

新規就農希望者の受入れについては、地域おこし協力隊制度を活用しながら、担い手研修農場を中心とした農業担い手育成センターを設置します。研修生の募集から農業研修、就農先農地や住宅の確保など、厚真町新農業者育成協議会など関係機関と連携しながら、新規就農支援を総合的に展開してまいります。

起業・新分野への進出と6次産業化への支援

ローカルベンチャースクールによる起業家の育成や事業者向け研修会の開催など、次代に向けた人材育成を強化してまいります。また、ビジネスチャンスの拡大をさらに後押しするため、新たな重点支援プロジェクトを実施し、地域での新規雇用創出や売上規模の拡大などを促進してまいります。

企業誘致の推進

お試しサテライトオフィスと昨年度整備したシェアサテライトオ

フィスを積極的に活用し、本町においてのテレワークを促進し、企業誘致や地元雇用など、本町への人の流れを創出してまいります。
観光協会が法人化と旅行業登録により、観光協会自らが地域資源を生かしたツアーを企画・販売できる体制といたします。

都市計画の推進

都市計画法に基づく開発行為の許可等に関する事務について、本年度、北海道から権限移譲を受けることとしましたので、専門窓口の設置、審査期間の短縮など、公正で迅速な事務処理に努めてまいります。

道路・河川の整備

町道新町フォーラム線の道路改良工事や富野浜厚真線の舗装工事など10路線の整備を計画しており、橋りょう長寿命化工事では、新たに共栄橋を施工してまいります。

公園・緑地の整備

上厚真中央公園整備工事では、多目的イベント広場や親水池、遊具施設などを整備してまいります。また、厚幌ダムは観光資源として

も大きな期待が寄せられていますので、地元自治会の幌内活性化委員会や北海道との協議・検討結果を踏まえ、ダム周辺の環境整備に着手してまいります。本年度は、当該委員会の要望を考慮し、幌内マナビイハウス前広場や道道隣接地の展望台を整備してまいります。

環境保全の推進

高丘地区の大型開発跡地については、昨年試験植栽したハスカップの育成管理を進めるとともに、新規就農者など新たなハスカップ生産の担い手育成の一助となるよう、必要な体制づくりを進めてまいります。

移住・定住の推進

分譲地の販売促進については、ハウスメーカーなど民間企業との協力体制を構築し、「フォーラムビレッジ」や「かみあつまきらりタウン」の魅力をより効果的に発信できるよう取り組んでまいります。また、新たな分譲地や子育て支援住宅用地として、町有地の宅地造成ならびに民有地の開発計画に着手してまいります。

簡易水道・公共下水道

統合簡易水道事業については、富里地区浄水場が完成し、本年度

から供用開始しますが、引き続き、新浄水場の外構工事と既設浄水場の切替工事、幌内、本郷、豊沢の各地区の配水管布設工事を実施してまいります。

交通安全・防災・防犯対策

町災害時備蓄計画に基づく備蓄品の整備、地区ごとの特性に応じた避難計画の作成を推進してまいります。

防犯対策では、最近の事件の傾向を考慮し、新たにこども園と小学校に防犯カメラを設置して犯罪抑止効果を検証してまいります。

住民自治の推進

主体的な取り組みを助長するため、自治会の運営、まちおこし、コミュニティ活動などの自主的活動を引き続き支援してまいります。

健全な行財政運営の推進

庁舎周辺の公共施設整備については、昨年度策定した当該基本構想をもとに、本年度は事業規模および事業期間ならびに公共施設等適正管理推進事業債などの国の財政支援措置を踏まえた償還圧力など、さらに詳細な庁舎および周辺施設整備の基本計画を策定してまいります。

平成30年度教育行政執行方針
たくましく生き抜く子どもと地域人材の育成



厚真町教育委員会教育長 遠藤 秀明

学校教育

子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進

厚真町学力向上推進委員会を中心に、学習に関わる児童生徒への質問紙調査の経年変化等の分析を行い、学習課題や指導課題の改善に努めます。義務教育9年間をつなぐ系統性の高い授業づくりを目指すとともに、児童生徒が自ら進んで学習に取り組むようとする学習意欲の向上に努めてまいります。

英語を活用しグローバル社会に生きる子どもの育成

英語を活用できる児童生徒の育成の成果の検証や今後の本町の英語教育の一層の推進につなげていくために、本年度から平成32年度までの3年間、中学校2年生と3

年生を対象に手上げ方式によるオーストラリアへの海外派遣研修事業を実施いたします。

健やかな体を育む子どもの育成

児童生徒の体力については、本年度も休み時間の遊びの奨励や部活動の活用を継続するとともに、学校活動や日常生活全体を通して体力向上が図られる環境づくりと指導方法の確立に取り組んでまいります。

昨年10月に改定しました学校給食費については、次期消費税の引き上げ等の時期を見据え、賄い材料費の動向を注視しながら学校給食費の適正化を図ってまいります。

ふるさとの良さを理解し厚真を愛する子どもの育成

ふるさと教育の推進では、生まれ育ったふるさに理解と誇りが持てるよう、社会科における「身近な地域の学習」や総合的な学習の時間における「体験的な学習」など、地域学校協働本部などと連携しながら、町の自然・歴史・文化にふれる学習活動を支援するとともに、小学校社会科副読本を活用し、地域学習の充実に努めてまいります。

質の高い教育を支える教育環境の確保

来年度からの小中一貫教育への一部移行を踏まえ、義務教育9年間で目指す子どもたちの姿を小学校、中学校が共有し、系統的な力

リキウムを編成するなど、小中一貫教育の導入に向けた組織のあり方や取組などに関係者の皆さんと協議・検討してまいります。教育環境の整備では、昭和38年に建築した厚真中央小学校の水泳プールについては、本年度と来年度の2年間で改修工事を行い、昭和45年に建築した上厚真小学校の水泳プールについては、来年度の移転・新設のための設計等を行い、子どもたちの体力づくりを図ります。

社会教育

社会全体の教育力の向上

「学習・生活・運動習慣」向上運動の後継事業として、電子メディアとのかわりに焦点化し、子どもたちが発達段階に応じた自己コントロール力を身に付け、望ましい生活習慣が定着できるように、「厚真町アウトメディア運動」を展開いたします。

厚真放課後児童クラブの運営拠点である厚真地区児童会館は老朽化が進み、狭いでもあることから、本年度、厚真中央小学校隣接地への建設に向け、現在、実施設計を進めており、建設費については、準備が整い次第、補正予算を上程し、平成31年度の供用開始を目指してまいります。また、周辺の自然環境を児童の放課後活動に最大限生かすため、保護者の皆さ

生涯学習社会づくりの推進

生涯を通じた多様な学習活動の推進については、本年度も出前講座の開催や親子の自然体験の実施など町民の学習ニーズに沿った生涯学習活動の充実を図り、地域の中に子どもや若者を核とした新たな交流機会を創出し、地域における学びのネットワークづくりを推進してまいります。

また、青少年センターのプラネタリウムは、昨年度、デジタル式の機器に更新し、投影内容や学習番組の充実が図られましたので、今後さらに子どもたちをはじめ、広く一般の方々に宇宙や科学への興味や関心を持つ機会を提供してまいります。

郷土の歴史と文化財の保護・活用の推進

本町にも縁のある松浦武四郎翁をテーマとして、本年7月に記念講演会やパネル展示、厚真での足跡をたどるウォーキングとバスツアーを開催いたします。

生涯スポーツの推進

本年度の集まりんピックは、北海道150年にちなんだ形で多くの方々に参加していただけるように、子どもから高齢者まで楽しめる競技の工夫に努めてまいります。